



平成 31 年 2 月 22 日
大阪市立今川小学校
保 健 室

『はしか』『風しん』について知ろう！

全国の感染症統計より、『はしか』の患者数が
過去10年で最多のペースで増えており、報道など
でご存知の通り大阪市内においても多数の患者数
を確認しています。

『風しん』においては、過去10年余りの中
で昨年は2番目に患者数が多くなっています。

『はしか』や『風しん』にかからないためには、
はしかと風しんの両方を予防するワクチンの
定期接種第1期（1歳児）と第2期（小学校
入学前）の2回接種することが大切になります。

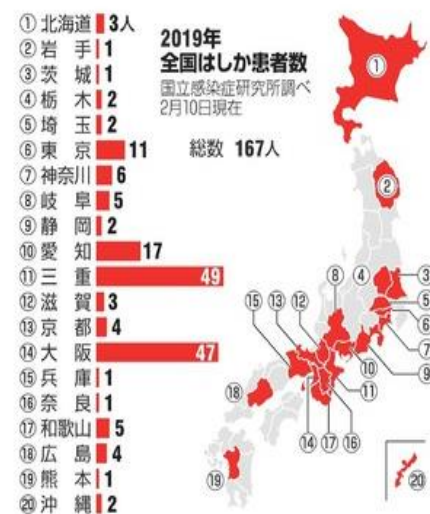
『風しん』も『はしか』も、特異的な治療法はなく、対処療法が中心となり
ます。予防には予防接種が有効で、1回の接種で約95%以上の方がウイルスに
たいする免疫を獲得し、2回の接種では免疫のつかなかった人の多くに免疫をつ
けることができ重症化を防ぐことにつながります。

風しんとはしかの両方を予防できるワクチンを1回も受けたことのない人

は、かかりつけの医師に積極的にご相談ください。また、2回ワクチン

接種ができていない人は、かかりつけの医師に相談することをご検討くださ
い。

もし『はしか』『風しん』の疑いがある場合、学校は休み、感染力が非常に強い病気のため、医療機関へ連絡をしてからマスクをして受診するようにしましょう。



↑朝日新聞の記事より

『風しん』って？

〔潜伏期間〕 16日～18日
〔感染しやすい期間〕 発しんがでる前7日からでたあと7日間

● 次のような症状が見られたら、早めに受診を！

- ・発熱の程度は一般に軽い
- ・小さいピンク色の細かい発しんが、顔～頭～身体～手足と全身に広がり、約3日で消える
- ・耳の後ろや首のリンパ節が腫れ、痛みがある



『風しん』と診断された場合、発しんが消失するまで出席停止になります。

大阪市こども青少年局の資料参照

『はしか』って？

〔潜伏期間〕 8日～12日
〔主な合併症〕 中耳炎・肺炎・脳炎
〔感染しやすい期間〕 発熱の1～2日前から発しんがでた後4日間

★感染力が非常に強く、とても重い病気です。

● 次のような症状が見られたら、早めに受診を！

- ・38℃以上の高熱、咳、鼻水、結膜充血、目やにがでる
- ・熱が一時下がる頃、コプリック斑と呼ばれる小さい斑点が頬の内側にできる
- ・再び熱が高くなり、耳後部～全身に赤みの強い発しんが広がる
- ・熱が下がると発疹がでた順に色素沈着を残して消えていく



『はしか』と診断された場合、解熱後3日を経過するまで出席停止となります。